

第2回北海道地域学校協働活動推進協議会兼コーディネーター等協議会（道東会場）

【道東】令和元年10月17日（木）（帯広市・十勝合同庁舎3階講堂 他）参加者：165名

1 事例発表「地域の実情に応じた推進・組織体制による運営について」

発表者 釧路市教育委員会教育支援課教育支援担当主任 嶽山祥子氏
釧路市地域学校協働本部統括的な地域学校協働活動推進員 森敏隆氏

組織的・持続的な取組にするためには、各地域のコーディネーターが安心して活動できるよう統括コーディネーターが全体を支援することが重要であるとの説明がありました。また、「学校のためではなく地域のため」という考えが、地域からの理解・協力を得る上で大切であるとの話もありました。

参加者からは、「コーディネーターの必要性がわかった」「学校や地域との共通理解をしっかりと図っていきたい」などの感想が寄せられました。



2 事例発表「放課後児童クラブ・放課後子供教室の取組について」

発表者 様似町教育委員会生涯学習課社会教育係社会教育主事 小島雄介氏

放課後児童クラブと放課後子供教室の一体的な取組を推進するためには、教育委員会と福祉部局の連携が欠かせないとの説明がありました。また、両者の連携により活動内容を充実させることで登録者が増えるなど、子どもの居場所づくりの充実につながっているとの話もありました。

参加者からは、「一体化した取組の内容やその重要性を理解できた」との感想が寄せられました。



3 選択研修

A 演習「あなたの知らない折紙の魅力」

講師 折紙サークル「パピロフレンズ」代表

折鶴の折り方から数種類のアニメの人気キャラを折る活動を行いました。講師からは、基本を応用することで、子どもから大人までが楽しめる活動になるとの説明がありました。

参加者からは、「放課後子供教室ですぐに実践したい」「折り方の指導方法が勉強になった」などの感想が寄せられました。

三浦将宏氏



B 「室内で楽しくできる体づくり遊び」

講師 帯広市スポーツ施設専門指導員

体づくり運動に継続的に取り組むためには、楽しみながらできる内容であること、フラフープやボール、新聞紙など身近にある用具を使って容易にできることが大切であるとの話がありました。

参加者からは、「冬季など運動不足になりがちな季節に役立つ内容だった」「高齢者を対象とした事業でも活用したい」などの感想が寄せられました。

福原ふさ代氏



C 演習「読書に親しむためのポイント」

講師 帯広市図書館嘱託職員

読書世論調査のデータを活用しながら、本のある環境づくりや読み聞かせの重要性について説明がありました。また、選書や読み聞かせのポイント、図書館と連携した取組など、放課後児童クラブや放課後子供教室などで活用できる具体的な方法についての話もありました。

参加者からは、「読書習慣をつけるための場面や環境等に合った取組方を学べてよかった」「読書のよさを改めて感じた」などの感想が寄せられました。

沼田陽子氏



D 演習「特別な支援を要する子どもたちのために」

講師 新得町児童保育課子ども発達支援センター専門員 浅井弘樹氏

支援が必要だと思われる子を特別に支援するのではなく、誰もが過ごしやすい環境をつくるユニバーサルデザインの考えが重要であるとの説明がありました。

参加者からは、「片付けや物の管理など視覚支援の方法が参考になった」「子どもや親に寄り添った支援の必要性を改めて感じた」などの感想が寄せられました。



4 コーディネーター協議会

講師 学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ主査 尾山清龍

コーディネーターが学校や地域の関係者との打合せを効率的・効果的に行っていくためには、目標や役割、留意事項を明確にした打合せのフォーマットを作成することが重要であるとの説明がありました。

参加者からは、「コーディネーターの役割や学校や地域との連絡調整の方法を学べた」「連携を円滑に進めるには、情報共有が大切だと感じた」などの感想が寄せられました。

